

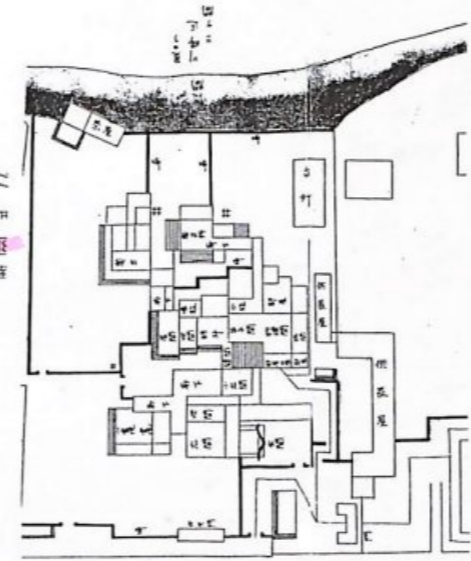
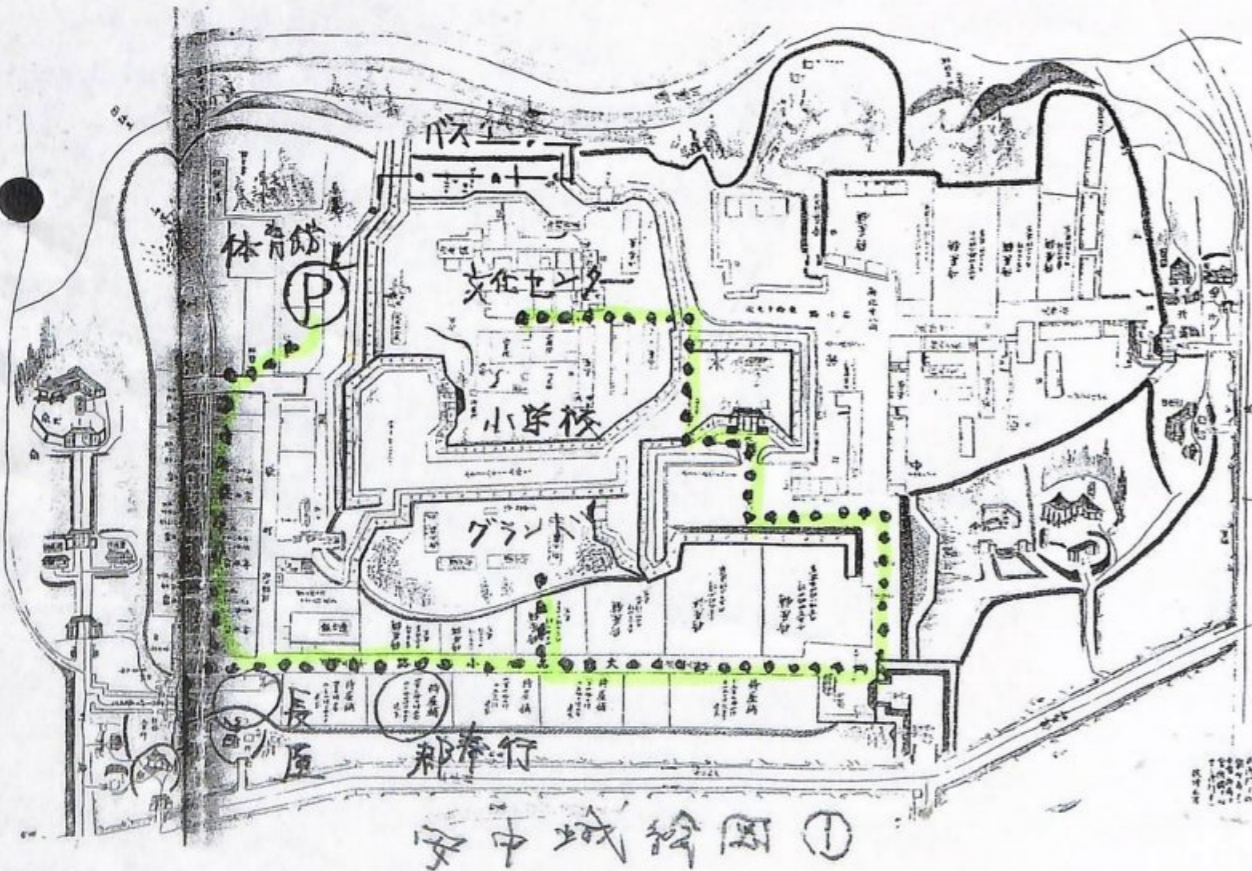
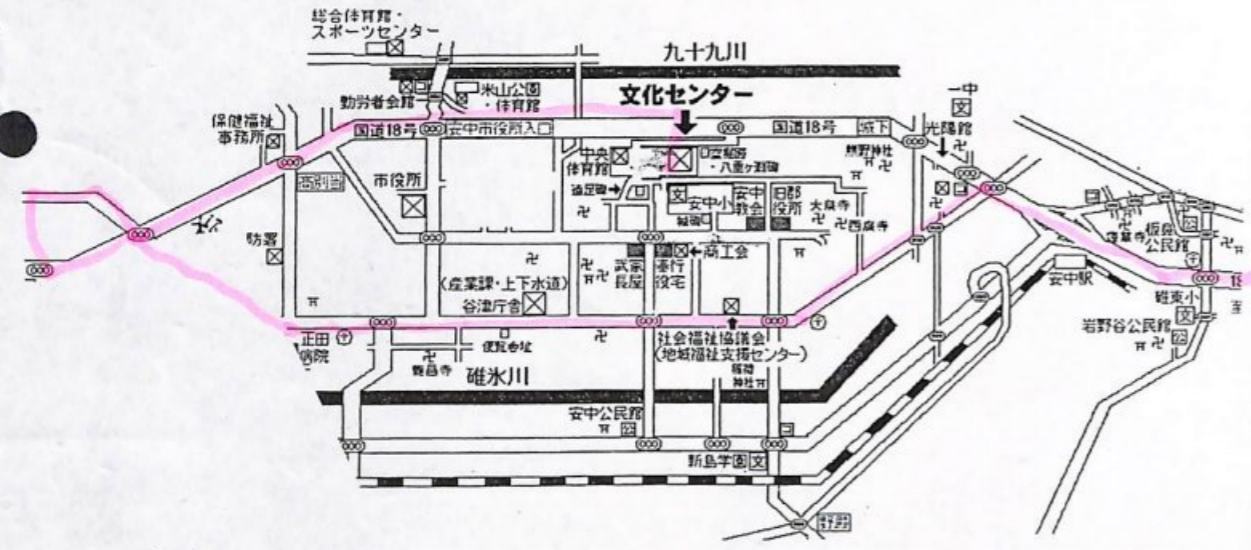
「日帰りバスで碓井峠の安中城、高崎城、沼田城を訪ねる」

平成22-6-9

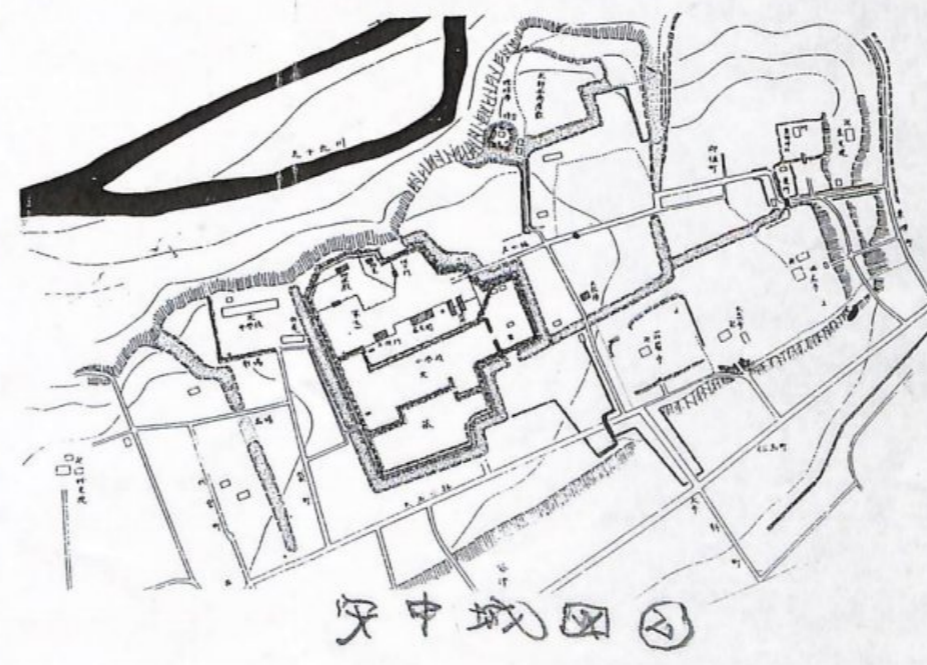
小藩ながらも譜代重臣の居城＝
中山道の抑えとして井伊家が構えた城郭

山岸弘明

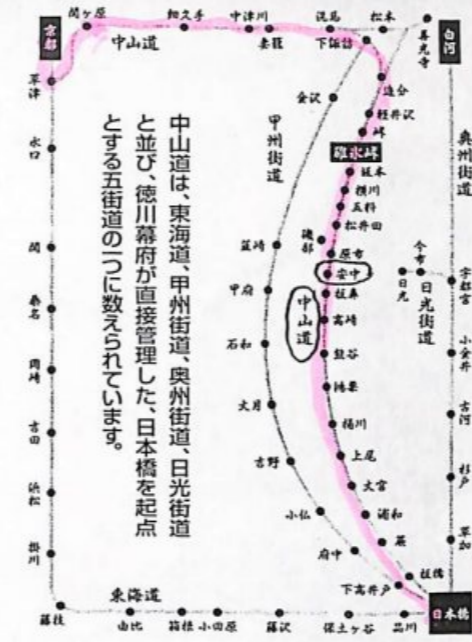
安中城 本日の案内コース



安中城図③



安中城図②



中山道は、東海道、甲州街道、奥州街道、日光街道と並び、徳川幕府が直接管理した、日本橋を起点とする五街道の一つに数えられています。

走って候 群馬・安中

「国内最古のマラソン」コースは、市中心部にちなんだ「第三」から、樹齢二百年以上十六回安政遠足待マラソンという天然記念物のソノ大会(東京新聞 杉並木を通り、長野県など後援)が九日 群馬の碓氷峠越えの約二馬車安中市の旧中山道 十九と、峠ふもまなどで開催された。待ての約二十。全国から姿などに仮装した参加者過去最多の計千九百者は、沿道の市民にユニークな扮装を見てもおどろき、ゆっくり楽しみながら走っています。勝明が一八五五(安政)



安政遠足

主要城主にみる安中城の歴史
安中忠政＝安中氏は越後新発田の出という。箕輪城主長野氏の重臣で戦国時代、山上上杉氏に与した。このころ力を付けた武田信玄が上野を脅かしたので、危機感を抱いた忠政は野尻(安中の旧地名)の窪庭図書を退け、永禄2年(1559)松井田と安中に城を築いた。しかし永禄9(6?)年、武田氏に屈し自害を命じられた。
安中忠成＝忠政の嫡男。安中を守るが敗れ、のち武田氏に属す。
景繁＝忠成の子。天正3年(1575)武田方として長篠の戦いに出陣し戦死、安中家が滅亡する。
織田領＝
小田原北条領＝天正10年(1582)小田原北条氏所領となる。11年松井田城を大改築。
徳川領＝天正18年豊臣秀吉の小田原征伐で、関8州は徳川家康に与られる。
井伊直勝＝「徳川4天王」井伊直政の嫡男。慶長19年「大坂冬の陣」の時、病気のため、弟直孝が出陣した。家康は直勝が軍勢を耐えられないとして直孝に家督を命じ、直勝に安中3万石が与えられた。直勝は横川関所を設けて徳川家の関東一円支配を確立した。
堀田正俊＝家光の側近正盛の2男。老中の時、後継将軍に綱吉を擁立、古河14万石に栄進して大老に任ぜられた。正俊の性格は剛直で外の閣僚から反感を買うことも多く殿中で殺害された。
板倉勝清＝江戸中期、家治の側用人、老中を勤めた。
勝殿＝安中藩最後の藩主。皇女和宮の將軍家降嫁にあたり中山道を通り、坂本宿、板倉宿泊まりの警備体制をした。明治維新の戦いは誓詞を出して官軍の通行、小栗上野介の追討などに対応した。明治2年版籍奉還で藩知事、4年の廃藩置県で東京に去った。城は明治6年廃城、破壊された。

縄張り
九十九川南岸、舌状台地先端絶壁上に立地、中山道に接した後ろ堅固の城、丘城、連郭式縄張り

ご案内時間 分
武蔵長良と郡奉行は団体入場

九十九(つくも)川の玉石を使った石垣造り、一朝ことあれば、中山道を封鎖し広大な3の丸で籠城

【上野】
安中城
Anaka-jō(碓氷郡安中市)
歴代城主
①井伊氏(譜代) 3万石・沼江藩より丸に橋
②水野氏(譜代) 2万石・三河新城より石持ち地抜き沼江下り跡
③堀田氏(譜代) 2万石・相模国内より堀田木瓜
④板倉氏(譜代) 2万石・下野国内より板倉巴
⑤内藤氏(譜代) 2万石・陸奥泉より下り跡
⑥板倉氏(譜代) 2万石・遠江相良より板倉巴
現在、城の中心部は市立小学校敷地。ほかには公共施設や住宅地、農地となった。土塁・空堀の一部が残る。また城域内の大名小路に、待屋が現存し公開されている。(群馬県建設) 群馬県建設
年表
慶長十九(一六四四) 井伊直勝、安中に三万石を与えられた。
元和元(一六四五) 井伊直勝、安中に二万石を与えられた。
正徳二(一六八七) 水野元勝、入封
享文七(一六八七) 堀田正俊、入封
天和元(一六八七) 板倉勝清、入封
元禄十五(一七〇〇) 内藤政清、入封
寛延十五(一七四四) 板倉勝清、入封
アクセス
JR信越本線安中駅からバス

上信国境を抑える幕府の拠点城＝安中城を歩く

1) 九十九川急崖を背負った「後ろ堅固の城」——文化センター駐車場で降車

①バスは国道18号線を進む。板鼻宿から安中駅前を通過
いったん安中城下である旧安中宿を通過、旧街道の雰囲気を残す松並木を見てヘアピン交差点を国道18号線にもどる。

②安中文化センター入り口＝安中城裏側、かつて九十九川急崖から大駐車場へ。
道路工事のため急崖は削られたが入り口周辺に城壘らしい雰囲気が残っている。

*駐車場入り口は本丸空堀を利用している

③「大安中城図」で城の全容と本日の「案内コース」を把握

*九十九川と碓井川、旧街道、バスのコース、現在地

*本丸、本丸御殿（文化センター、安中中学校校舎）

2の丸、蔵屋敷（安中中学校校庭）

3の丸大手口側、広小路、太鼓櫓、西小路

3の丸太郎兵衛屋敷（古城跡、櫓台＝九十九川断崖に突き出る）

3の丸大名小路、袋町、代官町

3の丸鉄砲場（馬場郭とも＝体育館、駐車場）

*町口御門、東御門、西御門、御門前の寺社（緊急時の外郭を想定）

2) 心身鍛練のためにマラソン——安政遠足碑と代官町

①日本最古のマラソン＝安政2年（1855）安中藩主の板倉勝明が藩士の「心身鍛練」のため安中城門から碓井峠の熊野権現まで29kmを競争させた。日本最古のマラソン大会とされる。

*大きな自然石に「安中藩安政遠足之碑」を刻む

*毎年5月第2日曜日に「安政遠足マラソン」を開催。アイデアあふれる仮想姿で旧安中城→杉並木→茶屋本陣→碓井関所跡→坂本宿→熊野神社を駆け抜ける。

②代官町＝3の丸外構え、藩の代官が居住した町という。

安中藩の家臣団（徒士以上）はおおよそ240名で、うち江戸詰め100名、国元140名、戸建ての武家屋敷居住者は30名ほどの上級藩士だけであった。

③小林家＝門や母屋、庭などに武家屋敷の面影が漂う。居住される小林家は旧藩士ではないとのこと。

④十字交差点付近が西御門跡。虎口3門中もっとも小型、緊急時の外郭でもある妙光寺南側に立地、細長い外弁形土塁を巡らせた。



松並木 安中宿通り 文化センター前



←入口土塁→小丸



安政遠足碑 → いきにくくマラソン大会



3) 藩士の大半はアパート社宅暮らし——武家長屋を復元

①武家長屋＝3人扶持から10人扶持の中下級藩士長屋。安中藩の武家屋敷は総じて質素、大半の藩士は長屋住まいであった。江戸後期の現存住居を解体修理、近年まで残っていた3軒長屋に1軒分を増やして当時の4軒長屋を復元した。

②屋根大寄せ棟造りかや葺き平屋、桁行26間、梁行3間を4区画に棟割りした。

道路側＝石垣、下見板張り、外壁（大壁、荒壁）、出格子与力窓（横格子）、玄関

③幕末居住者（手前東から）

小野盛太郎（8両3人扶持＝勘定役、大小姓）

佐藤鎌蔵（8石3人扶持＝広間平番、中小姓）

飯島伴四郎（10石2人扶持＝近習、朱印番、大小姓）

弓削田尧（10人扶持＝儒者見習い、給人）

(1)高持ち、扶持米、現金の3種混合。1人扶持は1日米5合。藩士の生活は苦しい。

④広々と感じるが観光用、周囲はもっと狭かった。前庭は畑で副食は自給した。

⑤1戸あたりの建坪は18坪、土間（台所）、下座敷、床の間付き上座敷、縁側、流し場、トイレで構成した。土間の小屋組みに注目、風呂は流し場か

⑥共同井戸

4) 現存長屋門と質素な役宅——藩校跡と郡奉行

①藩校造士館跡＝文化5年、藩主板倉勝尚（かつひさ）が藩士子弟教育のため創設。

郡奉行を勤めた山田山川（さんせん）が経学、詩文、吏事（りじ）、経済学などを講義した。新島穰は江戸生まれで造士館の就学は？

②郡（こおり）奉行役宅＝市指定重要文化財（有料＝団体入場）

郡奉行は領内の諸政を司る役職、警察権や裁判権を掌握、領民を統制した。

③長屋門＝屋根かや葺き寄せ棟造り。通路、土間、同心部屋。江戸後期建造。

④母屋＝ “ 建坪＝桁行7間、梁間2間半

玄関式台

上段、縁側＝執務室兼白州か

台所、おかって、座敷、納戸、縁側、湯殿、トイレ＝私邸

男部屋（1畳＝下男）

⑤重臣邸にしては、役宅部分、私邸部分とも極端に狭い。

5) ひろびろとした大名小路——江戸丸の内にあやかって命名？

①ひろびろとした道は3の丸のメインストリート。

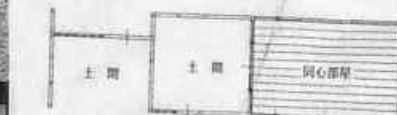
地名の由来は不詳だが、江戸丸の内の大名小路にあやかっただのではないか。

(1)板倉藩の江戸上屋敷は一橋外、中屋敷は神田佐久間町、下屋敷は本所五ツ目であった

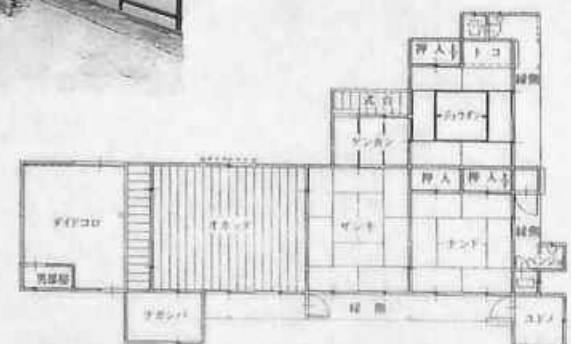
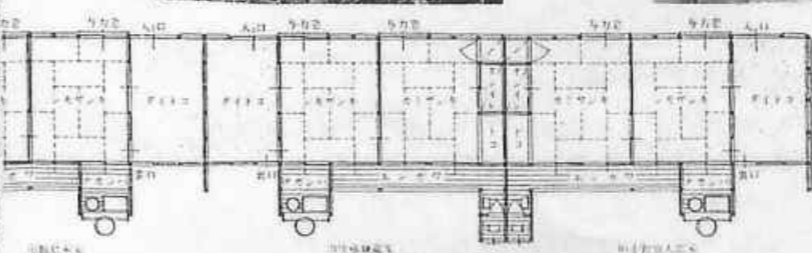
②各所にみえる石垣にも注目。多くが江戸時代からの現存。



←村家長屋



郡奉行所



6) 校庭は2の丸、校舎は本丸玄関 —— 城址碑掲げる安中小学校

①赤レンガの校門を入ると桜並木が続く。かつての3の丸武家屋敷地を通り抜けると、安中小学校のグラウンドと校舎に出る。安中城の2の丸と本丸跡である。

(1)登城道は大手側から迂回、この道はなかった

②安中城址碑

③2の丸跡(校庭) = 蔵地と本丸への迂回道

④本丸跡(校舎) = 校舎とその裏にある「安中文化センター」に本丸御殿があった。

7) 坂虎口に石垣も現存する —— 大手虎口町口御門

①町口御門番所跡=大手虎口内側の広場正面に門番所が置かれた。

②町口御門=外升形左折れ、升形は幅30m、長さ80mの坂道を石垣、白壁が囲む「坂虎口」で、廊下橋といえなくもない。人家に隠れる墨壁にも注目、左右両側に石垣が数百mに渡って積まれている。

*外升形=郭の外側にある升形、坂虎口、廊下橋

③絵図面による門形式は升形城外側が大木戸門、城内側が大棟門のようにみえる。

④大手虎口坂下は城下、宿場町に直結している。

8) 大手門への登城通路 —— 広小路、太鼓櫓跡

①日本キリスト教団安中教会=明治11年新島襄らが洗礼を受けて創立。日本人が作った日本で最初のキリスト教会。教会堂、温古亭、旧宣教師館など建築史上での歴史的意義が認められ、国の「有形文化財」に指定された。

②旧碓井郡役所=明治11年「郡区編成法」により誕生、21年現在地に移転、明治44年現在の建物を建造。大正10年廃止後は農業会などとして利用された。大入母屋屋根の桁行は17間をはかる。資料館として開放しているが外観だけとする。

③広小路看板と井戸跡=広小路は大手御門前の広場。戦時は攻守の最重要拠点で周囲を石垣、白壁で囲んだ。所々に石垣が見当たる。

④太鼓櫓跡=城内唯一の櫓。門の開閉時間や緊急時の総登城などに使用された。



←2の丸 安中城跡 ↑安中教会

郡役所
←町口内跡



←本丸玄関跡
広小路 →

9) つわものどもの夢の跡 —— 窺うすべもない大手門跡周辺

①畑地に「大手門跡碑」。絵図をみると両側に空堀、石垣を巡らせ中央にやや大型の四脚門を配している。門前に小型の馬出し、潜って石垣白壁の升形、続く20間ほどの迂回道は石垣と白壁が回る。通って御玄関前の門に出るがここにも升形が置かれた。

②大手御門跡の雰囲気はまったくない。学校脇沿いの石垣に沿って西小路に抜ける。堀跡道で石垣は積み直しこそあるが現存といえる。土中に空堀と石垣の下半分が存在し、石垣の上に本丸白壁が巡った。

10) 九十九川断崖に安中氏の旧城跡があった —— 空堀跡と東御門周辺を遠望

①西小路=この先100mほどで先ほどの広小路にぶつかる。直進すると200m先に城下独特のクランク(升形)があり、すぐ東御門跡がある。御門周辺地形はほぼ当時のまま現存、大きな「鏡石」も見られるが今回は省略する。

②本丸空堀跡

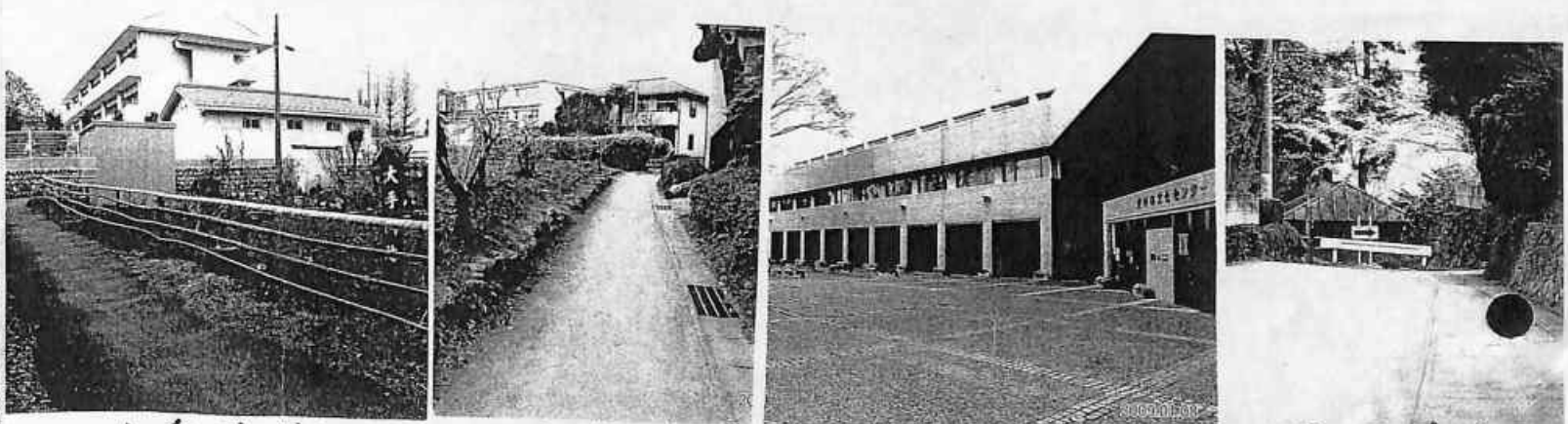
③その先九十九川断崖あたりが安中氏時代の旧城跡とされる。太郎兵衛屋敷と呼ばれる地が本丸跡で稲荷神社の土台は櫓台という。

11) 名前は城だが建物は陣屋造り —— 本丸御殿跡

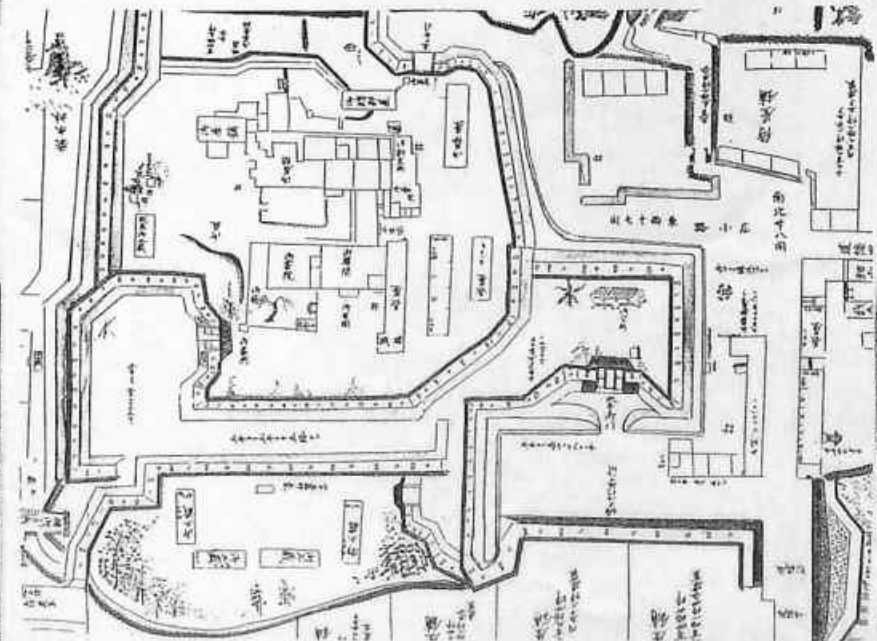
①文化センター=本丸御殿奥向き跡。藩主家族が居住した。正室と嫡子は人質として江戸上屋敷に居住、ここには側室とその子女が住んだ。
②小学校校舎=本丸御殿玄関と表向き、道路あたりが藩主の居室とみられる。
③絵図面から書院造りの御殿建築だが規模は小さく「陣屋造り」といえる。
④城と陣屋は藩主の格式で決まった。板倉氏は城主格、建物は小さくても城主に変わりはなかった。

12) 駐車場に戻って乗車、次の見学地「高崎城」をめざす

以上



大手内跡 本丸堀跡 本丸奥向き跡? 文化センター 東御門跡



←安中城
絵図①拡大



本丸空堀跡
←この石垣に現存石垣